



『読書週間』に向けて

10月末から「読書週間」が始まります。この時期こそ、図書館や本のことを知ってもらうチャンスです。学校や家庭で読書を楽しみましょう！

ブックランチ ~おいしく食べて本も好きになる~

献立に合わせて、給食の時間にその日の献立に含まれる料理をテーマに図書館でコーナーを設けたり、放送で本を紹介したりします。実際にそのとき口になっている料理に関係する本の話聞くことで、より給食をおいしく食べられるだけでなく、本への興味が高まります。

ビブリオバトル ~たくさんの本と出会おう~

「ビブリオ」はラテン語で「本」という意味です。ビブリオバトルでは自分のお気に入りの本を紹介しあって、どの本が一番読みたくなったかを基準とした投票を行い、参加者全員にとっていちばん読みたくなった「チャンプ本」を決めます。

※ ビブリオバトル公式ウェブサイト <http://www.bibliobattle.jp/>

いろいろコンテスト

「ポップコンテスト」「しおりコンテスト」「帯コンテスト」「ポスターコンテスト」「図書館のキャラクターコンテスト」などコンテストをすることで、図書館の本に興味を持ってもらいましょう。コンテストの応募作品は、読書週間に学校のさまざまな掲示板に掲示すると良いですね。

「クイズつきお話会」「本の贈り物」「本のタイトルしりとり」など、『読書週間』の楽しいイベントはまだたくさんあります。子ども、生徒の実態に合わせて考えてみましょう！





Hello! 学校図書館 箱崎小学校

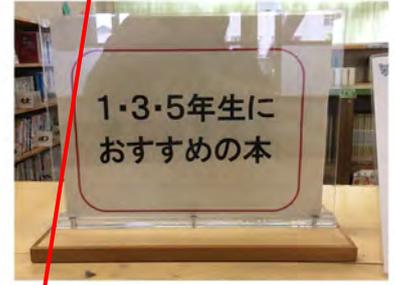
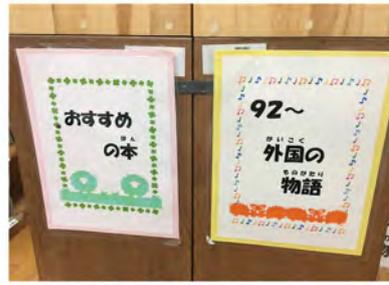
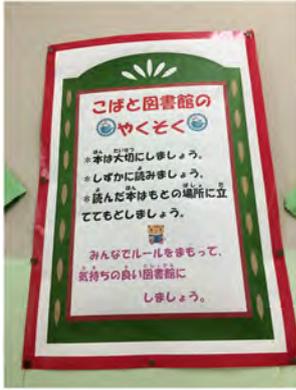
今月は東区の箱崎小学校を紹介します。

前日からの大雨で、訪問ができるか心配をしていましたが、元気な蝉の声と、校長先生の笑顔に迎えていただきました。「ものがたりルーム」と、「調べ学習ルーム」に分かれて本が配架されていて、季節を感じる掲示物もたくさんあり、あたたかい雰囲気 of 図書館でした。



季節の掲示物がたくさんあり、図書館がとても明るく感じました。また、廊下の掲示板にもおすすめの本の掲示がされ、明るい雰囲気の中で子どもたちが楽しみながら読書をしている姿が目につかぶようでした。安全対策もきちんと取られています。

読みたい本を探しやすい工夫



さまざまなコーナーの工夫



さまざまなコーナーがありました。子どもたちが本選びの時のお助けになることでしょう。

絵本がテープの色で分けてあるので、本を探したり、返却したりしやすいですね。

「読むと涼しくなるちょっとこわい話」のコーナーは全て貸し出し中でした！子どもたちはワクワクドキドキしながら本を手にとったことでしょう…。

本の帯を使った8月の掲示・展示

夏休みが終わると、たくさん子どもたちが夏休みに借りた本を図書館に返却にや
って来ます。「図書館の掲示物が変わった!」と気付くように、明るく楽しい掲示物を
作ってみましょう。



夏の風物詩、スイカです。
「夏 おすすめの本」の横
に掲示してみましょう!



さまざまな
グリーンリー
スを作ってみ
ました。

暑い日々で
すが、図書館
がさわやかな
雰囲気になり
ます!



9月の人ともの

9.1 防災の日

1923年9月1日午前11時58分関東地方を襲った大地震は、火災を発生させ被害を大きくしました。この大惨事の教訓と、台風シーズンの災害の防止の意味を含めて、1960年に「防災の日」と定められました。

9.9 救急の日

1982年に定められました。この日を含む1週間を「救急医療週間」として、全国各地で応急手当の講習会など救急に関する行事が行われます。救急医療に対する正しい理解と認識を広める日です。

9.20～26 動物愛護週間

秋分の日を中心として一週間行われます。アメリカで始められた愛護運動が発端となっていて、今では全国で災害救助犬のデモンストレーションや小学生の愛護ポスターの展覧会などが行われます。

オー・ヘンリー (1862.9.11～1910.10.6.5)

アメリカの小説家です。短編小説を得意とし、381編の作品を残しました。「最後の一片」「賢者の贈り物」は、絵本でも紹介されています。一般市民の悲しみや喜びを描き、共感を得ました。

杉田 玄白 (1733.9.13～1817.4.17)

江戸時代の蘭学医、町医者です。日本の医学を大きく発展させた人物です。オランダ語医学書「ターヘル・アナトミア」を和訳した「解体新書」や、回想録「蘭学事始」を書いています。

葛飾 北斎 (1760.9.23～1849.4.18)

江戸時代後期の浮世絵です。代表作に「富獄三十六景」「北斎漫画」があり、世界的にも有名です。オランダの画家ゴッホにも影響を与えました。21畳敷の天井に描かれた「八方睨み鳳凰図」が長野県小布施町の岩松院にあります。

【あしがき】

夏休みもあと1週間になりました。夏休みに総合図書館では、多くの子どもたちが本を借りに来ている姿を見ることができました。自分の読みたい本をすぐに見つけて借りる子、色々な本を見て読みたい本を見つけて借りる子、司書さんに聞いて本を探して借りる子・・・さまざまですが、どの子も満足感いっぱいの姿で本を借りて帰っていました。長いお休みにいつもよりたくさん本に親しむことができたでしょうか。

(足立)



今月は、けんかはどう解決したらよいかを、楽しく気づかせてくれる作品を紹介します。

『けんかのたね』

ラッセル・ホーバン／作 小宮 由／訳 岩波書店 2022年 ¥1300 (税別)

<お勧め年齢>

乳幼児★☆☆ 小低学年★★★ 小中学年★★☆ 小高学年☆☆☆ 中学生☆☆☆

高校☆☆☆ 一般☆☆☆

(★が多い年齢の子どもにお勧めです。)

<本の紹介>

仕事でくたくたになったお父さんが家にかえってみると、犬が猫を追いまわし、4人のこども達も大げんかの真っ最中。一番上の姉に話を聞くと弟のせいだといい、弟は妹のせいだ、とみんなが人のせいにした末に、猫はねずみのせいだと詰め寄ります。はたしてねずみは、なんと答えるのでしょうか……。

<子どもに手渡す時のポイント>

子ども同士のけんかという、子どもたちにとって身近な題材を取り扱っていて、けんかの原因が人から責められた時に、その意見を受け入れられない心にあると教えてくれる作品です。

しかし、全然説教じみた感じはなく、“人のせい”が数珠つなぎで続いていく面白さ、どんでん返しがある痛快さがあり、最後に落語のようなオチもあって、楽しく読める作品です。

読んであげるなら幼稚園の年長さんくらいから、自分で読むなら小学校低学年から中学年くらいまで楽しめます。

このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店に置いてあります。ぜひ手にとってみてください。



発行：福岡市教育委員会

総合図書館 図書サービス課

電話：092-852-0639

FAX：092-852-0801